

農業用水情報



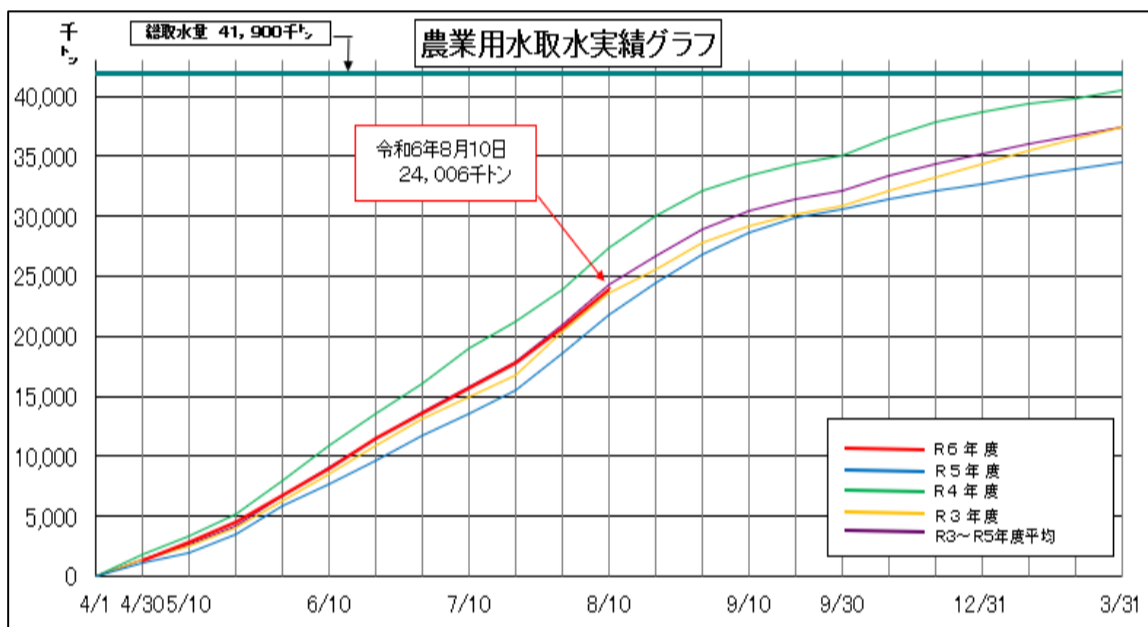
岩屋ダム利水貯水量 6,190万トン (貯水率100%)

農業用水取水量 2,401万トン (取水率57.3%) (ともに8月10日現在)

夏祭りが各地で開催される時期になりました。コロナ禍で自粛傾向にあった夏祭りでしたが、昨年くらいからコロナ前と同じような形で開催される地域も増えはじめ、夏の夜のひと時を過ごすイベントとして、楽しみにしてみえる方もあるかと思えます。この夏祭りですが、昔から由来のある祭りは、日本人の生活の中心となっていた稲作とつながっていて、夏祭りは台風や大雨、害虫などの被害が少ないことを願って行われていました。また、これとは別に、納涼祭のように暑い夏を少しでも涼しく過ごすイベントとして開催されるものもありますが、この地域の夏祭りは、後者のものが多いのではないのでしょうか。

受益者の皆様には、早期米の収穫時期を控えて多忙な日々をお過ごしのことと思いますが、まだまだ暑い日が続いていますので、体調管理等には十分ご留意いただき、これからの時期の作業に向けた準備を整えていただければと思います。

さて、水源地である岩屋ダムの利水貯水量は、8月10日現在で6,190万トンと満水状態を保っています。東海地方の8月の天候の見通しは、平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年より高くなる見込みとのこと。この時期は普通植えの出穂期を迎え多くの水を使う時期でもありますので、今後の降雨状況や貯水状況に注視していくことが必要です。



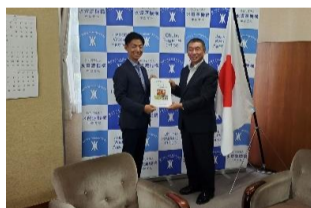
農業用水取水量は8月10日現在、2,401万トン(取水率約57%)で、過去3カ年の平均取水量より24万トン少なくなっています。一方、右岸用水における農水の年間総取水量は4,190万トンと定められています。

本年度の水稻用水使用期間もあと1カ月余りとなりましたが、受益者の皆様には、引き続き河川、ため池等の地区内水源を最優先に利用していただくと共に、掛け流しはしないよう節水にご協力をお願いします。

本年度の水稲用水使用期間もあと1カ月余りとなりましたが、受益者の皆様には、引き続き河川、ため池等の地区内水源を最優先に利用していただくと共に、掛け流しはしないよう節水にご協力をお願いします。

水資源機構 中部支社へ木曾川右岸施設の機能保全に関する要望書を提出しました！

8月5日(月)に、藤井理事長が独立行政法人水資源機構中部支社を訪れ、「木曾川右岸用水施設の機能保全に関する要望書」を提出しました。木曾川右岸用水施設は、緊急改築事業の実施により事業完了後の漏水件数は減少したものの、近年では、揚水機場の老朽化に伴う不具合や、未改築のPC管などの漏水事故が増加傾向にあります。こうした施設の現状を理解いただき、農業用水の安定供給と安全な施設管理を図るため、以下の要望内容を説明するとともに、意見交換を行いました。



- ① 経年劣化による突発的な事故の懸念が高まっている揚水機場の設備について、機能保全計画に基づく具体的対策の実施
- ② 未改築区間のPC管について、機能診断調査の実施及び機能保全計画の見直しを行い、その対策に向けた緊密な連絡調整の推進

なお、本年度は8月26日に水資源機構本社への要望活動を予定しており、その際には、各単区理事長にも参加頂くことになっています。

■ 東海地方の向こう3カ月の天候見通し (令和6年7月23日 名古屋地方気象台発表)

地球温暖化やラニーニャ現象の発生などによる影響を受け、日本付近は暖かい空気に覆われやすく、東・西日本太平洋側を中心に太平洋高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい時期がある見込みです。

【8月】 天気は平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年より高い見込みです。また、降水量はほぼ平年並の見込みです。

【9月】 天気は数日の周期で変わり、気温は平年よりも高い見込みです。また、降水量は平年並か多い見込みです。

【10月】 天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気や前線などの影響で平年に比べ晴れの日が少なく、気温は平年より高い見込みです。また、降水量は平年並か多い見込みです。